

患者データに基づくAFO(急性期)\*、  
N.A.P.® 歩行分類によるAFO、  
検診によるAFO/KAFO

[www.orthosis-configurator.com/ja](http://www.orthosis-configurator.com/ja)

\* 患者データに基づくAFO(急性期)の治療については、1ページ目のみに記入してください。

義肢装具士: \_\_\_\_\_ 会社: \_\_\_\_\_

顧客番号: \_\_\_\_\_ 日付: \_\_\_\_\_

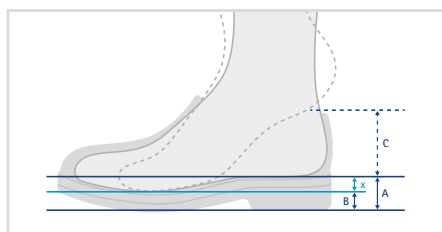
患者の個人データは、注文処理と統計学的評価のために保管・使用されますのでご了承ください。装具の荷重容量の計算は、ここに記入されたデータに関連付けて行われます。このデータは、装具を利用しているうちに変わることがあります。この装具療法シートに記入する際は、今後考えられる変化を考慮に入れてください(例: 体重変化、筋肉強度の成長や変化)。

## 患者データ

患者氏名	生まれた年	体重	脚
		kg	左脚 右脚
データプライバシーの目的のため、下の名の最初の2文字と、名字の最初の2文字のみを記入してください。	性別	身長	左右の足で以下の点が異なっている場合は、装具療法シートを2枚使用してください。
	女性 男性	cm	

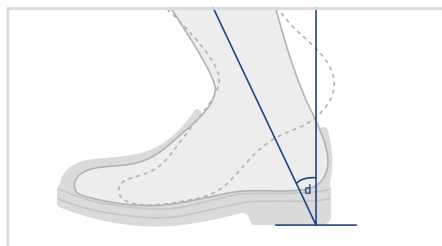
## 靴の測定

靴サイズ (EU) (足の長さ + 1.5cm) x 1.5

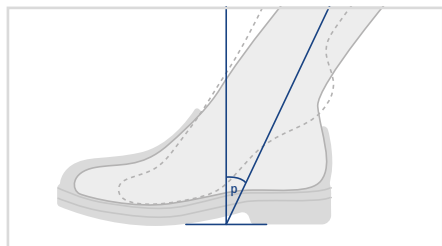


踵高さ(A)	踵と爪先の高低差 (x = A - B)
mm	mm
靴底厚さ(B)	高さ補償(C)
mm	mm

## 上側足関節の運動範囲



背側 ○



底側 ○

## 活動レベル

1. 屋内歩行
2. ある程度の屋外歩行
3. 無制限の屋外歩行
4. 特に高強度の無制限屋外歩行

### 患者データに基づくAFO(急性期)\*、 N.A.P.® 歩行分類によるAFO、 検診によるAFO/KAFO

[www.orthosis-configurator.com/ja](http://www.orthosis-configurator.com/ja)

\* 患者データに基づくAFO(急性期)の治療については、1ページ目のみに記入してください。

#### N.A.P.® 歩行分類によるAFO

N.A.P.® 歩行分類によるAFOフィットting用

#### N.A.P.®\*\* 歩行分類による歩行タイプ

膝関節	過伸展		過屈曲	
矢状面				
前頭面				
足関節	内反	外反	内反	外反
歩行タイプ	タイプ1A	タイプ1B	タイプ2A	タイプ2B

\*\* N.A.P.はRenata Horstの登録商標です。

#### 装具データ

患者との面談中のメモ(例えば以前の治療など)

#### 検診によるAFO/KAFO

##### 筋肉強度(Jandaによる)

0(ゼロ) 1(わずか) 2(不良) 3(可) 4(良) 5(正常)

股関節屈曲 \_\_\_\_\_ 股関節伸展 \_\_\_\_\_

0 1 2 3 4 5

0 1 2 3 4 5

膝関節伸展 \_\_\_\_\_ 膝関節屈曲 \_\_\_\_\_

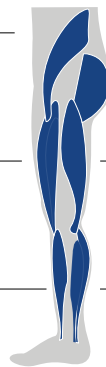
0 1 2 3 4 5

0 1 2 3 4 5

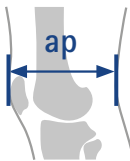
背屈 \_\_\_\_\_ 底屈 \_\_\_\_\_

0 1 2 3 4 5

0 1 2 3 4 5



##### ap測定値(KAFOの膝の機械的旋回点)



mm

患者データに基づくAFO (急性期)\*、  
N.A.P.® 歩行分類によるAFO、  
検診によるAFO/KAFO

[www.orthosis-configurator.com/ja](http://www.orthosis-configurator.com/ja)

\* 患者データに基づくAFO (急性期) の治療については、1ページ目のみに記入してください。

## 膝レベルの不安定性/変形

生理学的位置

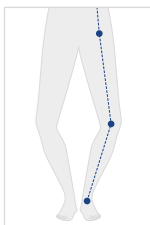
内反変形

最大

装具装着時の推定

○

○



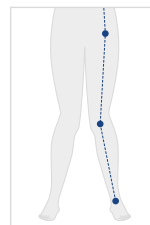
外反変形

最大

装具装着時の推定

○

○



生理学的運動範囲

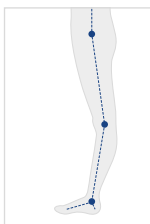
過伸展

最大

装具装着時の推定

○

○



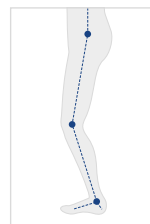
伸展の制限

最大伸展

装具装着時の推定

○

○



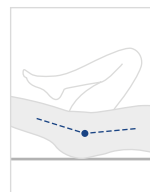
## 股関節レベルの不安定性/運動制限

生理学的運動範囲

伸展の制限

最大伸展

○



## 検診時に立つことができるか (補助が必要な場合も含む)

検診は患者が (少なくとも部分的に) 立った状態で行うことができる。

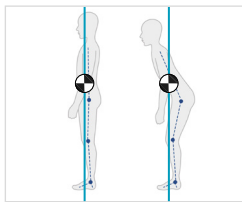
はい

いいえ

## 鉛直線の経路 (身体の重心から)

鉛直線が膝の旋回点を通る、  
または膝の旋回点より前を  
通る。

これは、重度の伸展制限の場合に起こることがあります。これは例えば、身体を前に曲げることで補償することができ、また装具で補正することが可能です。



鉛直線が膝の旋回点より後ろを通る。

これは、重度の伸展制限の場合に起こることがあり、装具で補償や補正をすることはできません。

